

# Jヴィレッジの 芝生維持管理について

雪印種苗(株) 緑化造園本部

東京支店 澤野 和成



## 1 はじめに

平成9年7月、世界最大規模のサッカー専用トレーニングセンター“Jヴィレッジ”が福島県双葉郡にランドオープンしました。

造成工事に参画していた当社は、東京電力・日本サッカー協会・Jリーグ・福島県等が主体の運営母体である(株)日本フットボールヴィレッジより、引き続き完成後の芝生管理業務を、前田建設工業(株)、日本体育施設(株)と共に受託し、作業を実施しています。

当現場は、芝生のサッカーフィールドを11面有しており、その全てが寒地型西洋芝を採用しており、当社の品種が100%となっています。

その他人工芝1面、雨天練習場、フットサル4面、ビーチサッカー1面とサッカーの事ではどんな事でもでき、ホテル棟併設のため長期の合宿も可能となっています。

Jヴィレッジの基本理念である『スポーツはよるこびです』は具体的には、「日本代表と同じ芝生

の上で、子供たちを含む幅広い利用者にプレーしてもらいたい。その感動をより多くの人々に体験してもらいたい。」ということで、その舞台となる芝生のフィールドは、Jヴィレッジの命といえます。

Jヴィレッジの芝生管理には、規模の大きさ、トレーニング施設としての利用のされかた等、一般的な競技場の管理とは異なる対応が要求されています。芝生のフィールドは、毎年数多くの試合や練習に利用されていますが、特に夏期の集中利用は突出しており、芝生にとっては相当の負荷がかかっています。こうした条件の中でも我々は、「最小のコスト+環境にやさしい芝生の管理」を目指して日々の作業を行っています。

多様な芝生のフィールド利用の中でも、活力のある芝生の維持は、真に芝生についてのノウハウを持っている当社でなければ管理できず、ゼネコンや運動施設関係の会社では到底判断できない部分が発生するため、当緑化造園部が中心になりJヴィレッジと管理の内容・中長期的方針の打合せをし、リーダーシップをとりながらJヴィレッジの芝生を維持管理しています。

## 2 芝管理の基本方針

現場では、「芝生は草であり、その体力を考える」を基本にして、今、どのような状態で何を必要としているのかを常に考え、いつでもお客様に最高の状態を提供できる事を目指しています。したがって、必要な作業はどんなに手間がかかろうと実施し、不必要な作業は徹底的に削除し、作業のスリム化をはかって現在も継続中です。このような管理の精神が我々スタッフによりやく根づき、個々に実行できるようになり、使用され続ける芝



写真1 液剤肥料散布作業



写真2 サッカーグラウンド



写真3 日本代表合宿風景

表1 主要作業の年間回数

項目	1面当たりの作業回数/年	備考
刈込み	60~70回	
施肥	16~23回	粒・液含む
目砂	4~5回	全・部分含む
エアレーション	10~11回	
オーバーシード	1~2回	
散水	40~55回	
転圧	10~20回	
ライン	50~60回	

生の究極品を目指しております。

### 3 芝生管理の実務

芝生管理の実務としては、主要作業の年間回数を基本に実施しています（表1）。

この作業を基本とし、天候等の状況に合わせて、実務を行っています。

また、実作業を行う上での基本的な考え方として3項目掲げています。

1. 芝生の状況に合わせた的確な作業を目指す。
2. 芝生の利用客、管理者、地域環境保全のため、無農薬管理を目指す。
3. 芝生の品質を落とさず、作業効率の良い管理を目指す。

### 4 施設の現状と評価

Jヴィレッジも、はや3年目のシーズンを迎えました。当初より高い知名度があり、四季を通じてプレーヤーが集まり、その人数は年々増す一方です。

また、そんな中でも日本代表の合宿は常々実施され、現在の代表監督であるトルシエ氏になって

からの合宿は毎回実施され、芝生への高い評価を得ています。

2000年は五輪の年で、現在予選を戦っているオリンピック代表も、ここからぜひ本大会に出場して頂きたいと思います。一方、2002年W杯の時には、日本で最初にベースキャンプ地として認定されており、今後ますます注目される施設と考えられます。

オープンしてからこの2年間に、芝生のフィールドに立ち練習や、試合を実際に行った人数は、のべ12万人・来場者数は30万人以上と、しっかりスポーツ界に『Jヴィレッジ』は定着したものと考えられます。

また一方、我々がJヴィレッジで芝生管理業務の中心として作業に携わっている事は、当社の芝種子や技術力を、官・民の発注者へ常に情報発信している事にもなり、かなりの波及効果が生まれているものと考えています。

### 5 おわりに

スポーツの舞台は、実施されている時はとても華麗です。その土台である“芝生”がしっかりとした物でなければスーパープレー・ファインプレーは生まれないものと考えられます。

我々緑化造園部は、Jヴィレッジの“生きた”芝生管理を通して、より高度な芝生についての知識と経験を取得し、サッカーのみならず、スポーツ界全体の振興に、より一層貢献させていただけるよう努力を続けてまいります。